

徳島県公共施設等総合管理計画 新旧対照表

(p24)

(4) 公共施設等の管理に関する基本的な考え方	
	修正前
<p>⑤長寿命化の実施方針 ～「一世代以上」の長寿命化を推進～</p>	<p>修正後</p> <p>長寿命化が必要と判断された施設については、その延長期間を「一世代相当分延長」、各施設ごとに例えば「25年(例えば、平均更新年数が40年の場合は建替期を65年に延長)と設定」し、その目標を達成するため、経済的かつ効果的で、<b>環境負荷低減脱炭素化</b>やユニバーサルデザイン化の推進、災害対応にも配慮した「予防保全措置」を適切に講じていくこととする。</p> <p>また、「長寿命化工事(大規模修繕工事等)」の実施に当たっては、「従来の平均的な更新時期」に建て替える場合と比べて、「LCC(ライフサイクルコスト)の削減」を図る。</p> <p>さらに、ユニバーサルデザイン化の推進に当たっては、多様なニーズや施設の状況を踏まえ、誰もが利用しやすい施設となることを目標として改修を行うこととする。</p> <p>なお、各施設ごとの長寿命化の具体的な方針については、各個別施設計画において定める。</p>

(p19)

施設名	検討内容
	修正前
<p>農林水産総合技術支援センター</p>	<p>修正後</p> <p>平成25年4月に農林水産業の研究・普及・教育の「知の拠点」として、機能集約はもとより全国で初めてPFI事業によりセンター本館等を再編整備した。本館等以外の施設は老朽化も見受けられることから、必要な施設の長寿命化を図る。</p> <p>水産研究課美波庁舎本館については、平成28年度に耐震化を完了したが、築50年を経過しており、長寿命化を図る。</p> <p>畜産研究課庁舎本館については、令和3年度に長寿命化等の改修を完了する。本館以外の施設も老朽化が見受けられることから必要な施設の長寿命化を図る。</p> <p><del>この他、</del>上板試験地、木材利用創造センターの施設については、今後も試験研究等で使用するため、必要な長寿命化を行う。</p> <p>また、農業大学校(勝浦)は、令和元年度に旧果樹研究所を改修し、カンキツ人材の育成や、にぎわい創出を図る拠点として整備し、令和2年8月に開設した。今後は計画的な改修により施設の長寿命化を図る。</p> <p>鳴門藍住農業支援センターについては、築40年以上が経過しており、施設の老朽化が見受けられることから長寿命化を図る。</p> <p>センター再編整備により不使用となった施設等については、「既存ストックの有効活用」という方針のもと、貸与又は売却を進め、地域における付加価値の創造に努める。</p>